木造用コンクリート基礎仕様書①

§１　一般事項

設計図書の優先順位は下記による。

1．本特記仕様書
2．設計図
3．標準図
- ◉ 鉄筋コンクリート構造配筋標準図
- ● 鉄骨工作標準図
- ● 鉄筋鉄骨コンクリート構造標準図
- ● 高強度せん断補強筋施工仕様書
- ● 鉄筋コンクリート壁式標準配筋図

4．木造住宅工事仕様書（住宅金融支援機構監修）
5．木造建築物工事標準仕様書（国土交通省大臣官房官庁営繕部監修）
6．仕様書　（　公共建築協会　＊日本建築家協会　）
7．日本建築学会標準仕様書，JASS5，JASS6

§２　地業工事

2－1　地盤調査　（　■敷地内，□近隣，□無:着工前に調査し確認する）

地盤調査の方法
■スウェーデン式サウンディング試験　□標準貫入試験　□平板載荷試験　□物理探査試験
□ボーリング試験　□その他(令93条による地盤区分　土質名：＿＿＿＿＿＿　)

2－2　地盤の許容応力度等

許容応力度等	値	その他
地盤の長期許容応力度	qa=　３０　kN/m2	
杭の許容応力度等	kN/m2	

2－3　地盤改良・杭又は割栗

種類	材料	その他
柱状改良	ウルトラコラム工法	
基礎砕石	C40	振動ｺﾝﾊﾟｸﾀｰ2回締め

§３　使用構造材料

3－1　コンクリート

○コンクリートはＪＩＳ認定工場製品とし施工に関してはＪＡＳＳ5による
○セメントは、ＪＩＳR5210の普通ポルトランドセメントを標準とする。
○計画調合は、工事開始前に工事監理者の承認を得ること。
○強度試験供試体(JASS5T-603)は、現場水中養生とし、採取は打ち込み工程毎及び、１５０m3につき１回を標準とする。１回に採取する供試体は、適当な間隔において、尚、特別指示なき場合は、１回当り６本以上とし、４週用に３本とする。
○ポンプ打ちコンクリートは、打ち込む位置にできるだけ近づけて垂直に打ち、床スラブにおいては、コンクリートの自由落下高さは１m以下とする。打ち込み継続中における打ち継ぎ時間間隔の限度は、外気温が２５℃未満の場合は１５０分、２５℃以上の場合は１２０分以内とする。

適用場所	種類	設計基準強度　N/mm2	スランプ	備考
捨てコンクリート	普通	Fc=1(8).5，15	20	
土間コンクリート	普通	Fc=(18)，21	18	
基礎・基礎梁	普通	Fc=18，(21)，24	18	

※注　単位水量は185kg/m3以下を原則とする。
単位セメント量の最小値は270kg/m3とする。
水セメント比の最大値は65%とする。
空気量は4.5%とする。
塩化物含有量は塩化物ｲｵﾝ量として0.30kg/m3以下とする。
粗骨材の最大寸法は20mm～25mmとする。

3－2　鉄筋

○鉄筋はＪＩＳG3112の規格品を標準とする。
○鉄筋の加工寸法、形状、かぶり厚さ、鉄筋の継手位置、継手の重ね長さ、定着長さは「鉄筋コンクリート構造配筋標準図（１）（２）」による

	材料	径	使用場所
異形鉄筋	SD295A	D10，D13，D16	梁、あど筋、スラブ
	SD345	D19以上	

○D１９未満は、すべて重ね継手とする。継手（D１９以上）をガス圧接とする場合は、日本あっ接協会「鉄筋のガス圧接工事標準仕様書」による
○ガス圧接部の切り取り検査は、同一作業班が同一日に施工した圧接箇所ごと(200箇所を越えるときは、200箇所ごと)に１回行い、１回の試験は５本とする。

3－3　溶接金網

網目の形状	レギュラー溶接金網丸鉄線
寸法(mm)	・１００　・１５０
鉄線の径(mm)	・４．５　・６

3－4　型枠の存置期間　（昭和４６年建告第１１０号　改正：昭和６３年建告第４６５５号）

	部位	セメントの種類	存置日数 15℃以上	存置日数 15℃未満5℃以上	存置日数 5℃未満	コンクリートの圧縮強度
せき板	基礎梁側	普通ﾎﾟﾙﾄﾗﾝﾄﾞｾﾒﾝﾄ 高炉ｾﾒﾝﾄA種 ﾌﾗｲｱｯｼｭｾﾒﾝﾄA種及びｼﾘｶｾﾒﾝﾄ種	３	５	８	1cm2につき50kg

§４　疑義に対する協議

設計図書に定められた内容に疑義が生じたり、現場の納まり又は取り合いなどの関係で、設計図書によることが困難又は不都合なことが生じた場合は、工事監理者と協議する。

§５　各種試験

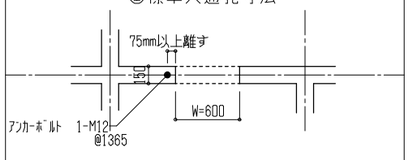
設計図書に定められたもの又は工事監理者の指示のあるものは、公的試験機関又は工事監理者の認める試験機関で試験を行うとともに、その試験成績書を工事監理者に提出して確認

§６　検査関係

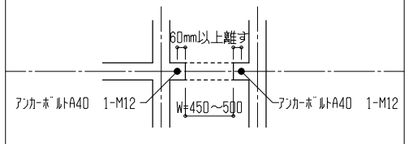
（注：施工後不可視の工事となる為に各工程ごとの施工写真は必ず撮るようにすること）
本工事の施工にあたっては、次の検査を受ける。
□　指示された材料、製品及び機器の検査→工事監理者
■　指示された工程時での検査→工事監理者
■　建築基準法に定められた中間検査→確認検査機関
■　住宅瑕疵担保保証機関による工程検査
□

※開口（人通孔等）標準詳細図

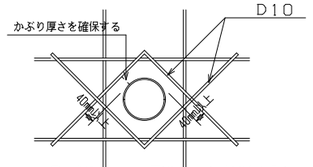
①標準人通孔寸法



②トイレ部など間口が１ｍ以下の人通孔寸法



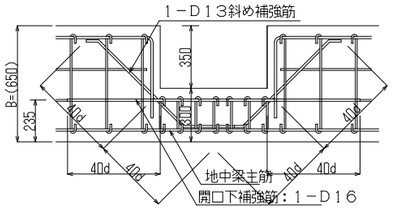
※配管等貫通口の補強計画

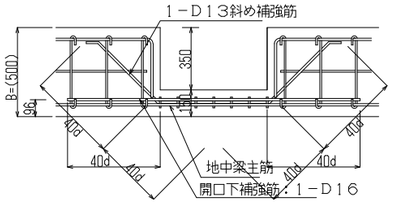


①外径8cm以上の貫通口には補強筋を入れる。
②貫通口径はH/3以下、隣接する貫通口の中心間隔は径の３倍以上とする。

※開口補強筋
フックは許容応力度設計により省略可。

（特記なき限り下記の補強を行う）



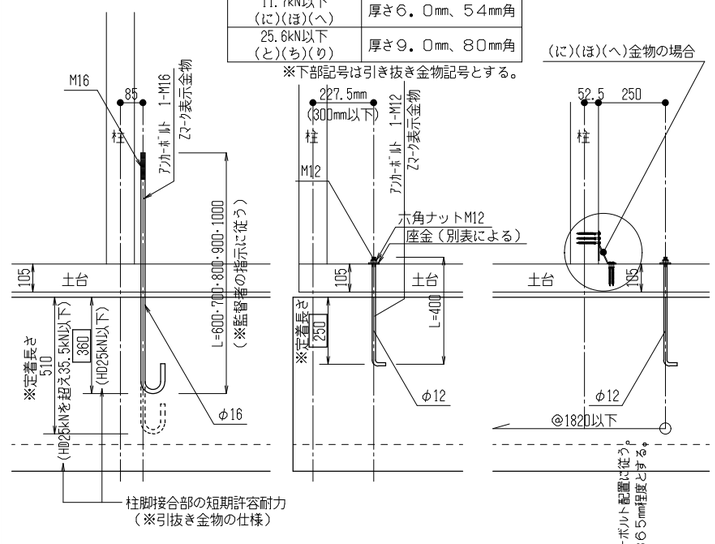


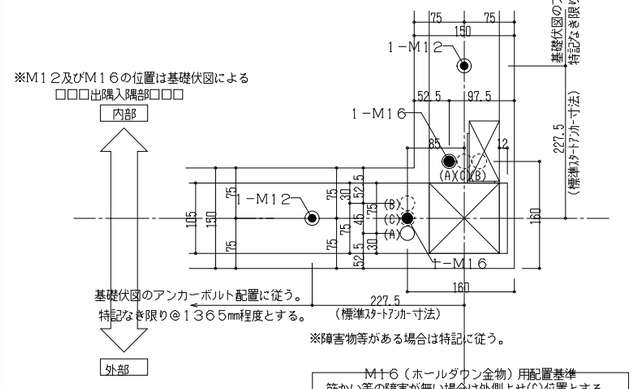
アンカーボルト配置標準図

座金の標準仕様（特記なき限り本表に従う）

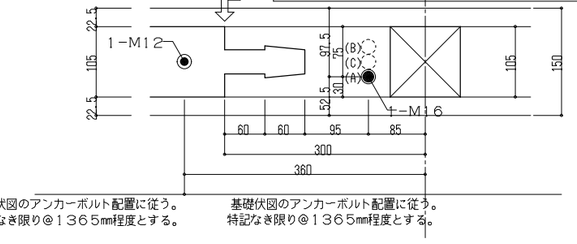
柱脚接合部の短期許容耐力	角座金の仕様
6.4kN以下(い)(ろ)(は)	厚さ４．５mm、４０mm角
11.7kN以下(に)(ほ)(へ)	厚さ６．０mm、５４mm角
25.6kN以下(と)(ち)(り)	厚さ９．０mm、８０mm角

※下部記号は引き抜き金物記号とする。





M16（ホールダウン金物）用配置基準
筋かい等の障害が無い場合は外側よせ(C)位置とする。
シングル筋かいは基本的に外側配置なので、筋かい端部が取り付く場合は(B)位置とする。
その他は筋かいのとり付き位置によって(A)(B)を選択する。



設計監理　ＲＹＯ設計株式会社
〒640-8328　和歌山市木広町４丁目８番地
TEL 073-427-2951　FAX 073-427-3951

RYO ASSOCIATED ARCHITECT
１級建築士登録番号　第125982号　松本良ニ
１級建築士事務所登録　第（リ）２７８

（仮称）蒲郡すみれ　看護小規模多機能
新築工事

DRAWING TITLE　基礎コンクリート特記仕様書

CHEET No.	SCALE	DATE	DESIGNER

No. S1

2025年 7月28日出力